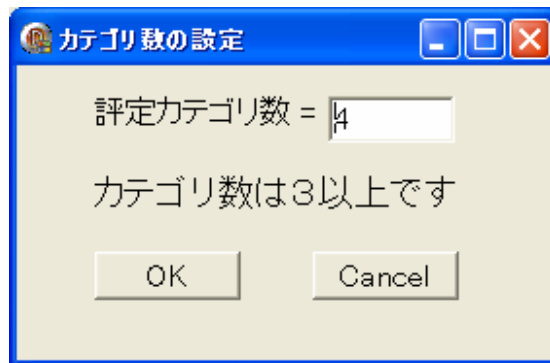


# SDT データの分析（評価データ）

PSDTCatMLE.exe

SDT 評価データを分析するプログラム PSDTCatMLE.exe を起動すると、図 1 のフォームが提示される。



カテゴリ数の設定

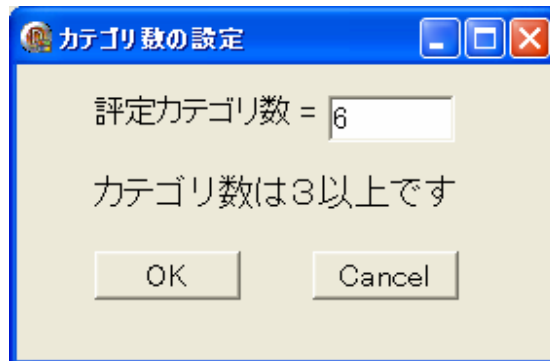
評価カテゴリ数 = 4

カテゴリ数は3以上です

OK Cancel

図 1 起動時のフォーム

カテゴリの総数を設定する。図 2 はカテゴリ数が 6 の場合の設定である。



カテゴリ数の設定

評価カテゴリ数 = 6

カテゴリ数は3以上です

OK Cancel

図 2 カテゴリ数の設定

カテゴリ数の設定後、「OK」ボタンをクリックするとデータの入力画面が表示される（図 3）。

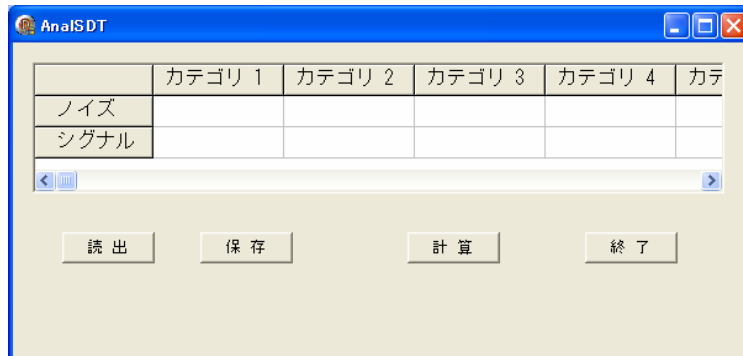


図3 データ入力画面

拙著表 3.5 のデータを設定すると図4のようになる。

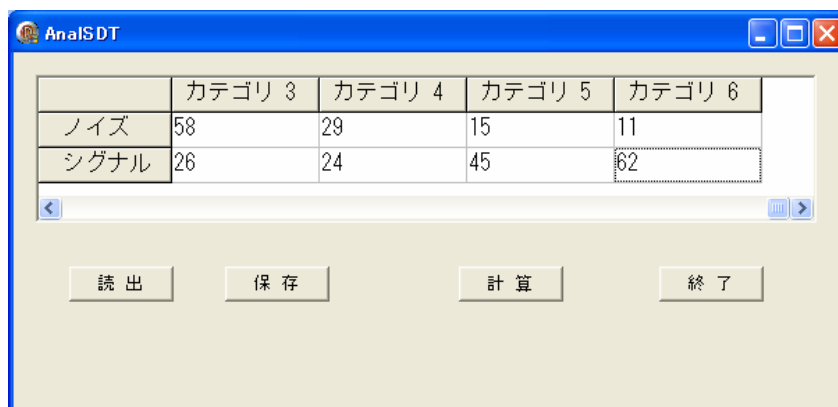


図4 データの設定

設定したデータは、「保存」ボタンのクリックでファイルに保存することができる。保存したデータファイルを読み込むときは、図1の起動時のフォームにおいて「Cancel」ボタンをクリックする。「Cancel」ボタンのクリックで図5の画面となる。

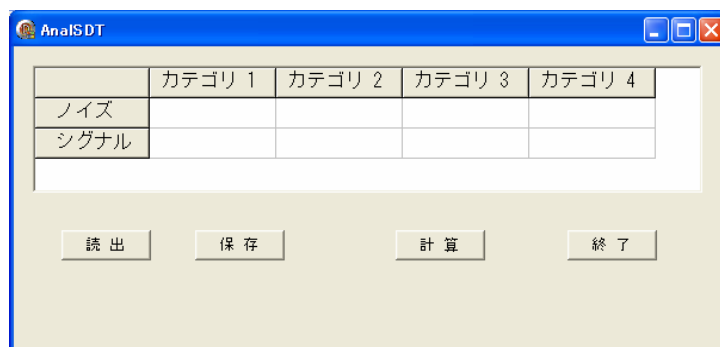
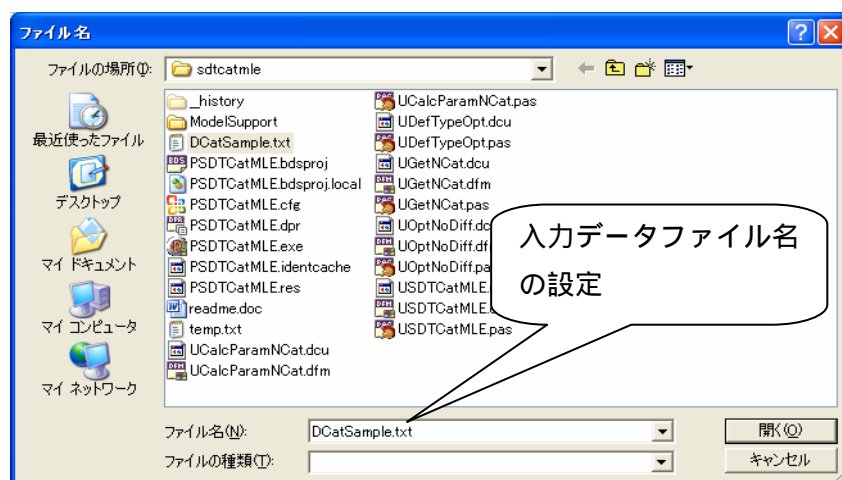


図5 「Cancel」ボタンのクリックで表示される画面

図5の画面で「読出」ボタンをクリックすると図6の入力データファイル名の設定を求め

るダイアログが表示される。



入力データファイルは図7のような形式のテキストファイルである。

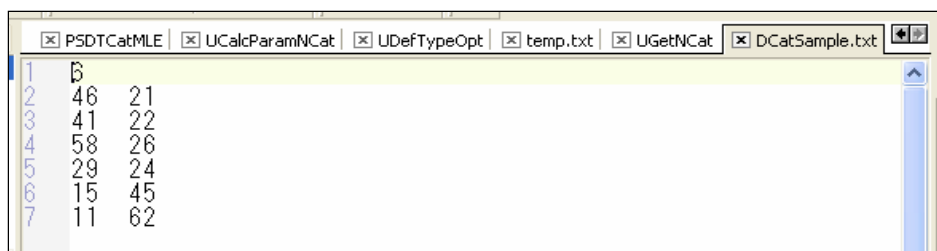


図7 入力データファイルの形式

第1行目にカテゴリ数が設定されている。2行目から各評価カテゴリの頻度が順番に並べられている。このデータファイルを読み込むと図4の画面となる。図4の画面の「計算」ボタンをクリックすると、まず出力用ファイルの名前の設定を求めるダイアログボックスが表示される(図8)。



図 8 出力用ファイル名の設定

出力ファイルへはテキストファイルとして書き出されるので、ファイル名の拡張子は「.txt」としておくと便利である。ファイル名の設定後、「保存」ボタンをクリックすると計算が始まり、分析結果が図9のように表示される。

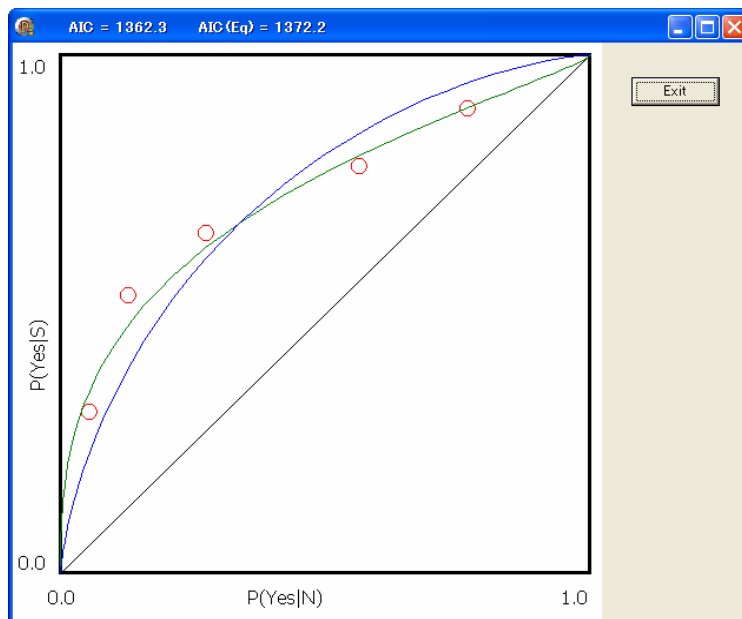


図 9 分析結果の表示

図9は、拙著図3.12のものと同じである。図9の画面の「Exit」ボタンをクリックするとプログラムの実行終了となる。プログラムの実行終了後、図8で指定した名前の出力ファイルをテキストエディタで開くと図10のようにになっている。

```
PSDTCatMLE | UCalcParamNCat | UDefTypeOpt | temp.txt | UGetNCat | DCatSa
1 |
2 AIC(NE) = 1362.3
3 d' = 1.0617
4 R = 1.4144
5 c[1] = -0.733
6 c[2] = -0.131
7 c[3] = 0.552
8 c[4] = 1.034
9 c[5] = 1.727
10
11 AIC(Eq) = 1372.2
12 d'Eq = 0.87164
13 R(Fixed) = 1.0
14 cEq[1] = -0.614
15 cEq[2] = -0.080
16 cEq[3] = 0.509
17 cEq[4] = 0.903
18 cEq[5] = 1.441
19
20 NFreq[6] = 11   NPrtn[6] = 0.055000   SFreq[6] =
21 NFreq[5] = 15   NPrtn[5] = 0.130000   SFreq[5] =
22 NFreq[4] = 29   NPrtn[4] = 0.275000   SFreq[4] =
23 NFreq[3] = 58   NPrtn[3] = 0.565000   SFreq[3] =
24 NFreq[2] = 41   NPrtn[2] = 0.770000   SFreq[2] =
```

図 1 0 出力ファイルの内容

図 1 0 に示されている内容は、拙著表 3.6 に示されているものを含んでいる。